

平成29年度下松市総合教育会議議事録

- 1 開催日時 平成29年11月9日(木)午後1時30分～午後2時25分  
2 開催場所 下松市役所 5階 503会議室  
3 出席者 [構成員]

市長	國井益雄
教育長	河村 崇
教育委員会委員	市川正紀
教育委員会委員	武内節夫
教育委員会委員	合田克己
教育委員会委員	江口雄二
教育委員会委員	今井かおり

[関係者]

総務部長	藤本泰延
企画財政部長	玉井哲郎
教育部長	吉次敦生
総務課長	広中和博
教育総務課長	今谷昌博
学校教育課長	世木 尚
学校給食課長	池田千帆
生涯学習振興課長	原田幸雄
図書館長	長弘純子
中央公民館長	藤井幹男
教育総務課長補佐(兼)管理係長	引頭康行

4 会議の付議の顛末

○教育総務課長 下松市総合教育会議を開催いたします。

本日の進行を務めさせていただきます、下松市教育委員会教育総務課長の今谷と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。

開会に当たりまして、國井市長よりご挨拶をいただきたいと思います。

○市長 皆さんこんにちは。平成29年度の下松市の総合教育会議に当たりまして、ご挨拶を申し上げます。

教育委員会教育委員の皆さんにはきょうはお忙しいところご出席ありがとうございます。また、平素から教育行政全般にわたりまして、ご支援をいただいておりますことに改めて感謝を申し上げます。ありがとうございます。

本市の教育行政につきましては、昨年度制定いたしました下松市教育大綱に基づき、教育委員の皆様を含め、学校や教育に関係する皆様方のご理解、ご協力を賜り、各施策が進められておるところでございます。

私はその中でも、安全安心の確保、そしてまた充実を最も重要であるというふうに考えております。本日はその観点から下松市教育の課題を、委員の皆さんと一緒に協議、そして意見交換できたらと考えております。

総合教育会議を通じて、十分な意思疎通を図り、方向性を共有しながら、本市教育行政をさらに発展させていきたいと考えておりますので、皆様方にはこれからもご指導、そしてご協力を賜

りますようお願い申し上げます、簡単ではございますが私からのご挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

○教育総務課長 ありがとうございます。

議事に入ります前に、お願いを申し上げます。お手数をおかけしますが、ご発言の際はマイクをご使用くださいますようお願いいたします。

それでは、議事に入りたいと思います。議事の進行につきましては、下松市総合教育会議運営要綱第4条第3項の規定により、会議の議事進行は市長が行うとされております。國井市長、よろしくお願いいたします。

○市長 それでは、議事に早速入らせていただきたいと思います。

きょうの議事は、下松市教育の課題についての1つ目、安全安心の確保・充実の観点から意見交換をしていただきたいと思います。

昨年大綱を策定させていただきましたので、今日はそれを基にしながら、安全安心を中心にした皆様方のご意見をフリーな形でいただけたらと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

早速、皆様方からご意見をいただけたらと思います。どの切り口からでも結構でございますので、どうぞご発言をいただきたいと思います。

○委員 お世話になります。久しぶりの総合教育会議ということで、本日は安全安心の確保・充実の観点からということで、いろいろと市長さんのお考えをお伺いしたいと思います。

まず第一に、市長さんは常に安全安心のまちづくりということをおっしゃられますが、子供たちにとりましては、安全安心の校舎等が非常に大切なことだろうと思います。しかし、下松市の小中学校の校舎等の耐震化率は県下で最低でございます。大変聞こえが悪いです。

しかし、下松小学校の校舎と中村小学校の屋内運動場を耐震化すれば、耐震化率は100%となります。既に下松小学校の校舎は建設にとりかかっているというので、本日は中村小学校のことをお尋ねしたいと思います。

中村小学校の屋内運動場の耐震化については、市長さんはどのようなお考えでしょうか。その辺をお聞かせいただければと思います。

○教育長 幾つか出されて、それに対して関連するものがあれば追加で。

○委員 中村小学校の屋内運動場については、非常時、災害時等については地域住民の避難場所にもなっているんじゃないかと思えます。耐震化をして、安全性を確保することは地域住民にとっても非常に大事なことはないかと思っております。

具体的にずばっといいますと、30年から実施計画に入り、31年度から解体、建設に入るように、ぜひしていただきたいと思いますというのが私の希望でございます。

以上です。

○市長 安全安心という面で、私も一番教育の面で考えている一番の最大の課題というのは、やっぱり耐震化だと思っております。給食の安全安心であるとか、いろいろあるわけですが、やはり毎日生徒が学ぶ場所、その建物の安全、この耐震化については一番早急に100%にしなきゃいかんというふうに思っています。下松小学校のほうは建て替えますので、残る中村小学校の屋内運動場については、今おっしゃるように前倒しをしてでも早く取り組んでいきたいというふうな気持ちを持っています。新年度の予算との絡みもでてきますので、その辺は来年度を目標にして早く実施に取り組んでまいりたいというふうには考えております。

○委員 私が申し上げるのは要求ではないんですけど、意見としてちょっと頭の中に入れておいていただきたいと思いますんですけども。私のこれまで教育委員としてたびたび学校を訪問させていただきました。先生方が非常に一生懸命教育指導に取り組んでおられると。また、子供たちも元気に伸び伸びと授業に取り組んでおるといふその様子を見まして、大変楽しく思っているわけなんですけれども。

やはり、学校の安心安全という面から見ると、今委員さんがおっしゃったようなハードの面はもちろん非常に重要であるというふうに思っています。それにあわせてソフト面の充実、これが先生のゆとりを生み、見守りもでき指導もできるという体制ができていくんじゃないかというふうに思っています。

そういう意味では、現在下松市ではソフト面、特に注目されるのはスクールカウンセラーとかスクールソーシャルワーカー、あるいはこころの教室、教員補助員、中には下松市独自で単独で行っていただいている事業もあるわけでございますけれども。こういったことをさらに続けていただくと同時に、充実をしていっていただく、そういうソフト面での安心安全の充実についてもご配慮いただいて、お願いをしたいということを申し上げたいと思います。

以上です。

○市長 先ほど申し上げましたようなハード面だけじゃなくて、食の安全安心も含めて、子供たちが安心して学校生活を送ることは、教育全体のレベルアップにもつながり、全体的にいい方向にいけば、極端に言えば、いじめや不登校などへの対策にもつながってくると思います。おっしゃるとおり、ソフト面も非常に重要な面だと思います。貴重なご意見ありがとうございます。

○委員 公民館についてですが、今年度の各地で公民館の建てかえとか公民館のあり方、こういったものが公民館の施設整備計画についていうと、教育委員会で協議しておりますけれども、具体的に例えば公民館の現況を考えて、地域住民から早く直してほしいとか、あるいは建ててほしいというのがかなり出ていると思うんです。具体的には米川公民館とか花岡、笠戸、末武、こういったところが出ていると思うんですが、こういった点について30年度予算、こういった公民館の設計費等を計上して実施していく方向をどのように考えていらっしゃいますか。

○市長 どの地域からも、これは耐震も含めていろんなご要望が出ているわけです。今、事務局のほうでその危険度とかを含めて住民の要望の熟度とか、それらを検討させてもらっています。それら今の現状について、事務局のほうから経過を報告してもらいます。

○生涯学習振興課長 公民館の建て替え等につきましては、生涯学習振興課が現在対応をしております。先ほど委員からお話がありましたように、米川公民館、末武公民館、花岡公民館・講堂、笠戸公民館、この4つの公民館について、現在地元の方々といろんな視点で協議を進めています。どの公民館も一斉に同じ状況で話が進んでいるわけではないんですけれども、それぞれの地域のいろんな実情、地域の方々の思い、そういったことを踏まえまして、今年度中に全体の整備計画を策定完了させて、30年度の予算に反映させることができるように、今最終調整をしているところです。

先ほど話がありましたけれども、会議の中でかなり話が進んでいるところもありますし、一方でなかなか会議を進まないのがあります。そういったことも最終的には整備計画を策定する上で影響してくるのではないかなというふうに考えております。その整備計画を完了させることが、今現在、生涯学習振興課のほうに取り組んでいるところであります。

以上です。

○委員 ありがとうございます。公民館の計画については、なるべく地元の皆さんの要望を聞いて、積極的に進めたいと思います。

もう一つ、よろしいでしょうか。この公民館に関連しまして、市長が前から公民館からコミュニティセンター移行を将来的には考えると、検討されたいというお話をしていただいていたと思いますが、具体的にはどういったふうな考えでコミュニティセンターをお考えでしょうか。

○市長 まだ具体的にどうこうという段階ではありません。私としては、やはり今、大災害も含めて、いつ何どきに何が起こるかわからない状況にあります。地域の安全安心の拠点づくりという意味では、将来的にはコミュニティセンターで地域の安全安心の拠点だという位置づけもしなければと思うわけです。

当然、生涯学習的な公民館的な活動も必要ですから、それらも網羅したような形を思っています。例えば私も安全安心対策の中で自治会とか地域に自主防災組織をつくってくださいとか、自助共助、地域の安全安心が命を守る砦ですよというようなお話もさせていただき中で、じゃあその拠点になるところは何だと、その地域のよりどころというのは、そういう地域ごとのコミュニティのセンター、安全安心の拠点、そういうふうに思っているわけです。

そうはいいいましても、なかなかすぐというわけにはいきませんが、私自身は将来的に早い時期には移行したいなという思いもあります。いろいろと整理が必要な面もありますんで、すぐというわけにはいきませんが、私自身はそういう地域の安全安心の拠点だという、決して生涯学習的な、公民館的な活動をどうこういうわけじゃなくて、それも含めた地域の柱になるようなもの

のを、安全安心の柱になるようなものをつくっていききたいなという気持ちであります。

- 委員 先だって教育委員会で滋賀のほうにコミュニティセンターの視察に行っていました。コミュニティセンターも、今までのコミュニティセンターと変わった、新しいコミュニティセンターのあり方もあるということがわかってまいりましたので、いろんな意味でご協力したいと思いますので、よろしくお願いします。
- 市長 いったん、議会の中でも、室積にコミュニティセンターのいいものができているから市長は見たことがあるのかという質問が出たことがありました。研究にでも参考に見に行きたいというふうに思っています。
- 委員 今、委員がおっしゃっていたコミュニティセンター化で、滋賀に視察に行かせていただいたんですけど。やっぱり活躍されている人たちは、ご高齢の方が結構多かったように見えました。今から将来を見据えて、若い人たちを育てていくというのも私は一つ必要じゃないかと思えます。今の若い世代の人たちは共働きの方が多いです。元気なご高齢の方がすごく活躍されているんですけど、そのパワーに若い人がついていけないというか、そういったのは教育の場面でもそうなんですけど。一番気になったいじめとかもそうなんですけど、今の若い人たちの世代というのは、私たちのときに比べてやっぱり心がガラスのように弱いというか、そういったソフト面での教育、強くしていく。建物も安全安心でいくんですけど、心を強くしていくというのも、今から支えていくのは人かなって思った部分もありました。そういった面でも市長、私たちも協力していきますので、ぜひお願いしたいなと思ってマイクをとらせていただきました。

下松市はすごく充実していて、給食センターも配置されまして、いろいろ物も入っていましたけど、すばらしい物が入っていて、親の立場からして何も文句一つもないと、子供たちを通わせていて安全安心だなと思っていますし。こんなすばらしい環境で勉強させていただき、私たちの時代はお弁当でしたから、給食は本当にありがたいなと思っています。

全てが全て、そう思われていらっしゃる方の中にはいないかなという部分もありまして。それに対応してくださっている教員の先生たちも本当にすばらしい方たちばかりで、頭が上がらないんですけど、不平不満をおっしゃっているという方の中にはおられるのかなという部分はあります。そういった面で、おっしゃったようにソフトの面とかでも心の面を強くしていってほしいという思いがありましたので、意見を述べさせていただきました。

- 市長 ソフト面の話と、そしてまた若い人という、これがやっぱりどの組織においても大事なんではなかろうかと思えます。我々もだんだん年をとってきますので、若い方との接点が少しずつ薄らいでくるので、そういう意味では社会全体の中での若い人の考え方、世の中が複雑化していきますので、何かにつけ事件とか考えられないようなことも起こる。そういう中で若い人たちに中心になってもらう、その中では教育は非常に大事な部分だろうと思えます、おっしゃるようにソフト面も含めて。

給食に関して言われたんですが、ちょうど去年夏にセンターができて、食について非常に迷惑をおかけしました。その後十分機能しておるんで安心しているんですけども。昨年の秋以降には大変迷惑をかけまして、本当ご心配をかけました。貴重なご意見ありがとうございます。

- 教育長 ただいま委員さんのほうからお褒めの部分と、それから若い人ということで、市長のほうからもどの組織においても若い人を育てていくことが大事だといったお答えもありましたが。私もいろいろと組織を考えていくのに、教員の組織がまず団塊の世代がみんな退職をしまして、これから10年たたないうちにほとんどの人が若手の教員になっていくというような時代を迎えます。そうしたときに、今あるノウハウとか何が大事なんだとか、いろんなことを若い人に伝えていくということはすごく大事なことだと思います。それが委員さんが危惧しておられるような、若い人の心が弱いというようなことをおっしゃっていたと思うんですけども。その辺をカバーしていくことにつながっていくのじゃないかと思うんです。

話を安全安心に戻しますと、学校でも安全計画をつくってこれを実施しております。そういったことがきちんとできていく中で、子供たちが身につけた力というのは、やがてこの子供たちが大人になったときに次の世代へ移っていくと、生かされていくというふうに考えております。そうした意味でも安全安心、今年度からはハード面もちろんですが、ソフト面の充実、これが非常に大事になってくるのではないかと思いますし。学校においては安全に関する計画がきちんと

実施されていくことを私は強く望んでおります。

特にこうした中、もう一点つけ加えさせていただきますが、コミュニティ・スクールが昨年度から下松市でも始まりました。コミスクの中で、こうした安全安心に関する取り組みが行われるようになってきていることも喜ばしいことではないかと思いますが。例えばある小学校でございますけども、土砂災害が起きたらどのように対応するかといったことをテーマに、講師を呼んで研修会を開くと。コミスクの委員の皆さんと学校の教員とで、市役所のほうも協力をして助言に行っているといったような会合が持たれております。こうしたことがどんどん広がっていくと、さらに充実していくのではないかなという思いがいたしております。

以上です。

○市長 今コミュニティ・スクールという話がありました。ここまで安全安心にかかわってハード、ソフト面でご意見も中心にいただいたと思うのですが。ちょうどコミュニティ・スクールという話がありましたので、これも安全安心にかかわる話ですけども、子供たちに地域のことを、いろんなお祭りやら地域で一緒になって、例えば何々祭りで中学生が司会をやるだとか、そういう行事を手伝ってもらったり、いろんな場面で小学生、中学生、演奏をやるだけじゃなくて進行を手伝ったりしておられるので、非常にいい方向だなと。これもコミュニティ・スクールのおかげかなという気がいたしておるわけですけども。

例えば、ある企業の方がその学校に行って講演をするという話の中で下松の産業の話なんかするときに、君たちはこういうのを知っているかと、例えば下松市で新幹線をつくっているのを知っているというふうな話の中でおっしゃるのは、まあ知っている子供たち少ないというわけです。そういう中で、私はやっぱり地元のものをある程度教育の中で教えるというか、そして地域愛、郷土愛、そういうのも引き出すのは幼児を含めて小さいころに必要なんじゃないかなという気がするんです。そういうコミュニティ・スクールが出たところで気になるんですが、地域の子供たちに地域のことを教え込む、もっともっと、そういう教育の中での、これも安全安心とは直接結びつかないかもわかりませんが、私はこういうものを大いに期待しているんですけど。何かそういうところでご意見でもいただけたらと思うのですが。

○委員 昨年、鉄道をイギリスに輸送するっていうんで道路を高速車両が走ったという、大変全国から注目を浴びましたが、ああいったようなことは子供たちは知らなかったわけです。大きな工場があって、ものづくりのまち下松を今どんどん全国に発信しているわけです。そういった、胸を張って下松市がどんどんすばらしい都市になっていると、全国でもまれなほど安全安心なまちだと、こういったことをどんどん教えるためには、子供たちにどんどん職場見学をさせるとか、お父さんが僕の勤めている会社はこういう会社なんだと説明するとか、学校の先生が下松市ではこういったものをつくっているんだとか、そういった教育も大事じゃないかと思うんです。

ですから、自分たちの住んでいる環境がどういったまちなかをもっと子供たちに教えるような具体的な接点を設けるイベントとか、講演会とか、見学とか、そういうものをどんどん考えていただければ、もっと子供たちがより安全で安心して、また誇りを持てるまちに住んでいるという自覚を持てるようになると思います

○市長 各校の中での教育の時間的なものもあろうから、社会科だけにはならないと思うので、いろいろ委員がおっしゃるような幅広く。

私も今コミュニティ・スクールという話が出たとき、文教のほうにおりまして、ちょうどコミュニティ・スクールのはしりのときに、コミュニティ・スクールだったら下松の豊井小学校は、学校の中に田んぼをつくって田植えをして、収穫で稲を刈ったりして、その段階で地域のお年寄りがかなり貢献されているわけです。泥の搬入から、田んぼの土の搬入から、米のつくり方から、地域の方が物すごく入り込んで、3世代でつくろうという。だから県の委員会のときにも、とにかく下松の豊井小学校を先進視察したらどうかというようなことも言わせてもらった覚えがあります。今、委員から言われたように、いろんなことをあらゆる角度から、子供たちが小さいうちから関心を持ってもらって、そして地域のよさも地域教育、学校の中で、ちょっとその辺、困難さもあるというふうなご意見も含めていただけたらなと思っています。

○委員 学校の時間数の問題も大変だろうということで、詳細をよくご存じだなと思って関心しているんですが。確かに昨年の催し物はすばらしかったと思いますけど。教育の難しさは中立性を

保たないけんのです。だから、ああいう昼間やりましたけども、夜はしょっちゅう陸をって運びよるわけです、港へ。だから夜運ぶのをビデオにでも撮って、もし教育の中立性を考えるならば、学校で何かの時間にこういうすばらしいことを下松市はやっているんだよと。すばらしいです、鉄道発祥の地に鉄道を送りよるんですから。これほどすばらしいことはないと思いますが。どうもやっぱり一つの企業の名前が教育の場に出てくるところら辺に、ちゅうちょしているところがあるんじゃないかと思います。その辺の難しさがあると思います。

ついでに言わせてもらえれば、コミュニティ・スクールは下松市は県下で最後に実施をした市であります。しかし、コミュニティ・スクールはなくても私はこの下松市の教育に市民の皆さんが協力していただいているのは、ほかのどこよりもすばらしかったと思っております。コミュニティ・スクールがなくても、コミュニティ・スクールのようなことをずうっと前からしていたということです。

とにかく、時間の制限があるということも大変つらいところです。今キャリア教育といいますか、職場体験学習なんかを中学生は必ずやりますが、私が思うのは農業体験をすることが余りないんです。やる時期も悪いのかもわかりません。その職場体験をする実施時期は冬のようなときじゃなかなか農業体験はできませんから。それもあるかも知れませんが、どうも第一次産業、林業とか農業とか、それに携わってみたいという希望が余りないような気がします。

○市長 そういう意味では農業公園なんか活用できるような、これもまた久保のほうは体験しているかな。

○教育長 いや、やっていません。

○市長 これも授業時間との関係もあるでしょうし。

○委員 それは総合学習の時間がありますので、問題ないと思います。ネックはそこまで行くバス代だろうと思います。バスか何かで行かないと行けんところが多いと思いますので。そのバス代に非常にお金がかかると。

○委員 話題を変えていいですか。きょうここで全員で意思疎通を図りたいということでの意見を言わせていただくんですけれども。私は最初に教育委員になりましたときに、ある方から先生の事務仕事を少し減らすことはできんのかなと、遅くまで電気がついていることがあると。やっぱりどうしてもやらなくちゃいけないことがあると思うけれども、余り限度を超えると子供たちへの指導や安全の見守り、そういうことにも支障が生じてくるのではないかなというようなことをおっしゃったわけです。そうなのかなというふうに思いながらも、その後、統計数字とか新聞報道等もいろいろ注意をして見ておりましたけれども、やはりこれは全国的にそういう傾向にあるようです。

しかしながら、下松市の教育委員会がどうこうして解消できる問題とも思いませんけれども、やはり教育委員、市長さん等で共通認識を持ちながら、そういう機会があれば国・県に対して要望をするし、制度を変えることはできんかも知れませんが、事務的なことなら少しでも解消していくようなことも頭の中に入れておいて、先生方に少しでも心の余裕を持っていただくということをお願いしたいと、そういうふうに思った次第です。

○市長 貴重なご意見ありがとうございます。

○教育長 委員さんおっしゃること、本当によくわかりますし、働き方改革が現在叫ばれている中でありまして。心の余裕、それは物すごく大事なことで私も思います。今、県教委のほうでやっている取り組みが3年間で30%準備を減らそうということで、今年度はその初年度になっておりますし、下松市教委においても特に学校教育課のほうで先生方への事務分担量を減らそうとすることを目標を掲げたりして、取り組みを始めているところでございます。

まだ検証をするのはこれから先のことになるかと思うんですが、いろんな角度で考えていかなきゃいけません、本日のテーマが安全安心ということですので、ちょっとそれに絞ってみると。例えば通学路の安全確保ということで、夏休みなどに学校の教員と地域の方と、警察の方も交えたりして、通学路の安全点検などを行ったりしています。そういうときに、例えば三種の神器になりますけれども、GPSの受信機とICレコーダーと、それからデジタルカメラ、この3つを持って歩いていくと。そうすると、地図のソフトが出ていてそこに何時何分どこで写真を撮った、どこで声を吹き込んだ、それもぱぱっと出てくるようなソフトがあるんだそうです。

将来的にはそんなものも検討して、これを学校へ持って帰って教員方の手仕事で打ち込んで整理してやったら何日もかかるような事務量になっていくと思いますので。何かそういった研究もこれからは要るんじゃないかなということを思いました。

○市長 ありがとうございます。教員の事務量というのはよく問題にされますし、例えば通信簿をつくるのは夜中までとか。部活を担当される顧問が減量化のために、市議会のほうでも一般質問で外部から部活の顧問にとか、そういうような声も出ていますし。いろんな角度からいろんな軽減策というか、一朝一夕にすぐなるよという話じゃないかもわかりませんが、いろんな対応もしていかなければというふうに思っています。

ほかにございませんでしょうか。

○委員 安全安心には直接関係がないんですが、人口の問題なんです、下松は5万7,000人突破して今どんどん伸びております。児童数も場所によっては伸びているところもあると。しかし場所によってはどんどん減っている校区があるわけです。その校区の問題なんです、このことが議会でもよく出ていると思われましても、今後その校区のことについていじるような予定があるのか、考えがあるのか、その辺のところ市長さんどうお考えでしょうか。

○市長 ことしの4月に中村小学校と公集小学校、プレハブ校舎を新築したわけです。今事務局のほうで確認しておるのは、これで大体平成35年ぐらいまでは大丈夫だろうと、今からの予測で。という見方をしています。したがって、今から五、六年は大丈夫だろうと。今おっしゃったような、ふえるところ、減るところがあるわけですがけれども。私はそういう自然動態で校区をという気持ちは、今現在のところ持っておりません。特別な何か外部的な大きなあれがあるとか、特殊な事態になればまた別ですけども、それはやはりこれからも行政的にバランス的なものとは違っていく必要があろうというふうに思っています。地理的な問題もありますから、これも一朝一夕にすぐ解決する問題じゃないですけども、市の全体をバランスよくといいますか、開発するのは民間でありますけども、そういう誘導も含めた施策を当面はやる必要があろうかと。

数がこうだからという今までの地域を崩して、笠戸島は特殊な事態だったからやむを得なく廃校になったりしましたけども、校区を今の流れの中で物理的にやろうという気持ちは私にはありません。

○委員 もとに戻りますが、教員の仕事の量がもう少し減らされないかという話が出たんですが。かなり前になりますが、学校のスリム化ということが随分言われたんです。こういう案が出ては消え、出ては消えるんですが、長続きしない、何も解決しないままに終わってしまっているんです。学校のスリム化というのは、学校が学校で教えなきゃいけないことをやろうじゃないかと。そして家庭は家庭でしなきゃいけないことをしっかりやろうじゃないかと、社会は社会で子供たちを育てなきゃいけないためにできることをしっかりやろうじゃないかというのが学校のスリム化だったんですけど。何も解決できないままに終わってしまいました。というのは、家庭でやるべきことをやろうじゃないかということが一番のネックだろうと思います。社会のほうは結構やっつけていただいていると思います。家庭がいろいろな家庭があってもなかなかできない、そこにいろいろな問題が学校に持ち込まれると。だからまず学校が先生の忙しくなるということも多々あるだろうと思います。非常にこれも一朝一夕にはできないという難しさがあります。

○市長 難しい問題です。おっしゃることはよくわかります。

○委員 だから言えばいいちゅうようなことじゃないんです、文部科学省なんかでも。私がそれを聞いたのは文部省の時代やったかもしれませんが。学校のスリム化ということは随分言われました。

○市長 確かにおっしゃるように、学校での役割、社会の役割、家庭の役割、これらがバランスとれんと、それが全部学校にいっちゃうとそういう大きな悩みもあるわけです。

○委員 もう一つ言わせてもらおうと、今の若い先生は仕事は仕事場、要するに学校、家に仕事は持ち込まないということで、かえって忙しい目に遭っているところがあるわけです。またそうせざるを得んかもわかりません。コンピューターなんか使いますから、日曜日なんか家でもちょこちょこつとすればいいものをわざわざ学校へ出ていかないといけなくなるということもあるだろうとは思いますが。私たちの時代は、学校で余り遅くまで仕事をしていると先輩から叱られました。何を学校の電気を使かって仕事をするかと、家へ帰ってやれということ家でしよう

がなしにやらないといかん。それは冬なんか学校でやるのが一番いいです、ストーブがありますし電気代は要りませんし、仲間も二、三人はおりますから楽しいかもわかりませんが。なかなか私どもの時代はそうはいかなかったという面もありますし。そういうことで、かえって自分の首を絞めている、仕事をふやしている面があるのではないかと思います。昔の話ですけど。

○委員 私も若い世代ではないですから、やっぱり今の20代、30代の保護者の方とか、私も50ですけど、40代の保護者の方とのギャップは感じます。考え方の違いだと思うんですけど、誰かのためにとかそういう気持ちがちょっと、心のゆとりがないんですかね、若い世代の人たちは。逆に恵まれ過ぎているからかなと思う部分があるんです。物はある、全てがそろっている、ゲームも何もかもある。でも私たち小さいころはそんなに、鉛筆はありましたけど、私たちの父親世代とかは戦争だっていた時代ですから焼け野原で何もなかった、私は同居していますのでしょっちゅうしゅうとからそういう話は聞かされたんですけど。何もない焼け野原、ゼロからの立ち上げだったからかハングリー精神、今の70代、80代の方はそういうバイタリティーはすごいなと思います。ああいうところをもっと若い人たちが見習っていけたらなというのは感じるんです。逆に一生懸命な私たちを見ていると、若い人たちは何でそこまでするっていう感じみたいなことを、そういうふうな意見が出るんですけど。そういうハングリー精神というか、確かに自分の家族も大切ですけど他人の子供も当然大切ですし、地域も大切、人間って一人では生きていけないわけですから、誰かと協力し合って生きていかないといけないわけですので。やっぱりそこでチームワークです。チームで動いていくというのは私はすごく大切だと思っていてんです。なかなか二、三十代の保護者の方とのギャップは感じます。一生懸命やる人、正直者がばかを見るじゃないですけど、そこまでしなくてもいいのかなと思うときが多々あったのはあったんですけど。それは70、80の方が青春を謳歌されているという感じですから。そういうハングリー精神、やる気をもっと若い人たちに身につけていけたらと思ったんですけど。

人が育つて時間がかかるんです。昔の方が1年でできたことを、今の方は多分3年ぐらいかかるんです。ゆとりが悪かったのかなと思うんですが、本当に早くしてっていう。ちょっとスピードが緩いというか。でも年ってあつという間に過ぎてしまうんです。私もこの前28だったのにもう50過ぎて（笑声）もうおばさんと言われる年になったんですけど。あつという間に時が過ぎていくのが早く感じたんで、人生って一生に一度しかないですから、生きているうちに何かしておきたいというのが主なんですけど。1つのことしかできないんです、今の若い人たち。私たちのときは1回に2個、3個するのは当たり前だったんです。やっぱりたたき上げられた時代でしたから、本当にスピーディーでした。だからやっぱり強いです、そういう人たちのほうが心が、精神的に。今の若い人はちょっと言うたらガラスのようにぱっと崩れていくというか。いじめ問題じゃないんですけど、自分はいじめって受けとめられたらいじめになってしまう時代ですので、ものの受けとめ方というのをもうちょっと教育という場面で。でも先生も大変だと思えます。事務仕事、余分な仕事がふえていってしまうし、私たちの世代は学校の先生は勉強だけ教えてほしい、それだけで十分だったんですけど。今の保護者の方はいろんなことを求めてこられますから、えっと思う部分がいっぱいありますけど、そこはどうなのかな。考え方とか受けとめ方の違いなのかなと感じる部分はいっぱいありました。

○市長 昔からの話になりますが、学校の中での役割がふえているというのも浮き彫りになっております。委員がおっしゃったように、学校の役割と家庭の役割、社会の役割ちゅうのが皆学校のほうに、私がこう申し上げちゃいけないのかもいけません、悲鳴みたいな感じがするんですが。

○委員 今時代が変化しているターニングポイントだと僕は思います。ITがこれだけ発達して、どんどんコミュニケーションも我々の時代と変わってきていますから。それを昔の感覚で同じことを言われると困っちゃうんですけど。特に行政は引っ張っていかなくちゃいけないですから。その辺まだ十分、我々から見ると後を追っているというか。ただ下松は大変いい市だと思うんです、来たときはそうは思いませんでしたけど。やっぱり学区の問題もそうなんですけども、お母さん方とか初めて会った方は割合素直に感じておられると思うんです。ほかの市に比べて、安全安心面でもすばらしいんじゃないかなという感覚で来られた方はやっているんじゃないかなと思うんです。ですから、この雰囲気はどう崩さないでいくか、そのほうが厳しいかなと。人口は変動があると思うんです。確かにマンション40階建てなんか1棟できるとすごい人が入ってくる

わけですから相当雰囲気も変わるし、考え方ももちろんそこに入ってくる人の考え方が中心になってきますから。その辺行政は常に市民の皆さんの傾向、早く捉えて対応していったらと。

さっきのコミュニティセンターなんかもやっぱり非常に重要な情報を得る場所だと思うんです。学校は当然いろんな情報がどんどん集まってきますけども。住んでいる人々の情報というのは、そうは集まらないので。その点はやっぱり公民館活動、そういうものを充実させていくように。学校はレベル的にも、学問的にも、校長的にもすばらしいレベルにいつていると思うんで、今度は市民へ向けて教育を。済みません、僕はよくわかりません、この程度で勘弁してください。

○市長 冒頭申し上げませんでした、1時間を目途に進めようかなという思いがあったんですが、それに近づいています。フリートキングでございますので、何でも結構ですからご意見ございましたらどうぞ。

○委員 再び耐震のほうに戻らせてください。下松小学校の校舎の建設について少しお尋ねしたいと思えます。細かい部分になりますので、担当の方で結構でございます。現在、管理特別教室棟を建設中だろうと思えますが、基礎工事を行っている辺でしょうか。

○市長 工事の進捗ですね、事務局のほうから。

○教育総務課長 今建築主体工事のほうで10月末の進捗率が15%で、言われましたとおり基礎工事を行っているところでございます。今のところ台風が来たりして天候によるおくれが若干ありますけれども、順調に進んでおります。

○委員 当然この工事をするのに予算というのがついてくると思えますが、予算の執行状況はどんなですか。建設業界は資材が高騰したり、人手が足りないということで一時大変苦労をされていることがあったと思えますが、予算がどうもこのままでは足りないということはないですか。

○教育総務課長 現時点ではそういったことは発生しておりません。

○委員 それと、下松市の耐震化計画、県下で最低というような大変ご無礼なことを言いましたけども、この耐震化計画で一ついいことも言わなきゃいけないと思えます。市長さんだけでなく、きょうは市議会の皆さんもたくさん来ておられ、市議会の議員の皆さんにもお礼を言わないといけないと思えます。耐震化工事をするときに、耐震化工事だけではなくて、教室、廊下、あるいはトイレまできちんと整備をしていただいたと。普通のところは耐震化工事をするだけなんですけど、下松市の場合はそこまでしていただいたと。大変感謝しております。また末武中学校、下松小学校、大規模校舎の耐震化ということは大変お金がかかるだろうとは思いますが、耐震化だけではなくて建て替えるということでやっていただいたと。大変な予算がかかるだろうと思えますけど、大変ありがたく思っています。この場を借りてひとつお礼を言いたいと思えます。

○委員 これは要望として頭の中に入れておいていただければというふうに思えます。最近生活様式が変わってきたからということなんでしょうけれども、子供たちが和式のトイレを非常に嫌がるという傾向があるやに聞いております。どうしても行かなくちゃいけないときには行くと思えますけれども、我慢をするという子もいるという話も聞きます。これまでそういう意味では積極的に洋式化を進めてきていただいております、たしか私の記憶では50%を超えたぐらいのところに来ていると思えます。この辺は少しでも前倒しをして進んでいきますように、要望をしたいと思えます。

○市長 ありがとうございます。ほかにはよろしいでしょうか。

○教育長 安全安心というテーマでお話が進められてきましたが、さまざまな施策で今推進をされてきていると思えますが、本当に大事なのが子供たち、特に学校教育に的を絞っていくと、子供たちの精神的安定というか、情緒の安定、これも安全安心につながる最も大事なことじゃないかなと思っております。そのためには、教員がやっぱりゆとりをもって働いて、子供と向き合っってしっかりと対話をしていくという、そういう姿が望まれるわけです。今からまたいろんなことがあるでしょうけれども、少しでもそうしたことが充実していくようになると子供が落ち着いてくる、それがまたいい結果を生んでくるんじゃないかなということを感じます。

以上です。

○市長 いろいろご意見ありがとうございました。こゝらでその他の項目も含めた全体を閉めてよ

ろしいでしょうか。最初は小学校の建て替えなり、公民館の建て替えなり、一般質問を受けるのかなという恐怖を感じたわけですが（笑声）、そのうちにいろんな面で、ソフト面とかご提言をいただきましてありがとうございます。特に最後に行政は世の中の傾向を見ながら引っ張っていけという役割を非常に印象深く、肝に銘じたところがございます。そういうことで、皆様方から安全安心を中心にいろんなご意見やご要望をいただきました。下松市の教育行政の参考にさせていただいて、また今日はいろんな意味で気持ちを共有できたのではなかろうかというふうに思いますので、これからの教育行政と一緒に進めてまいりたいと思いますので、これからもよろしくお願いを申し上げまして、きょうの総合会議を閉じさせていただきます。どうもありがとうございました。

○教育総務課長　ご熱心にご協議いただきましてありがとうございます。

以上をもちまして、平成29年度下松市総合教育会議を終了します。お疲れさまでした。

午後2時25分終了

平成29年11月 9日